

# 「新しい一歩」と 「元氣な町づくり」

小野町長 大和田 昭



輝かしい新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。町民の皆さまには、ご家族おそろいで夢あふれる平成28年の初春をお迎えのことと存じます。

当町は1町2村が合併し、小野町が誕生して以来、還暦にあたる60周年の節目の年を迎えることができました。

この間、幾多の困難を克服し、社会資本の整備を重ね、飛躍的に成長・発展した小野町の歩みは、先人諸賢の偉業もさることながら、町民一人一人の熱意と努力の賜物と深く感謝と御礼を申し上げます。

誕生から60年、地域は少子高齢化や高度情報化により、私達がかつて経験したことのない社会情勢へと変

化を続けております。

そして今、「地域創生」という地域自らが創造し、特性を活かした地域づくりが求められております。

そのため昨年は、町の喫緊の課題である人口減少対策に関する「小野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を多くの皆様のご意見をお聞きし策定したところであります。

「結婚・出産・子育て・教育に楽しみや嬉しさを実感できるまちづくり」、「活気にあふれ、賑わいを実感できるしごとづくり」、「新しいひとの流れづくり」、「未来に向かって安全で安心して生活できるまちづくり」の4つの基本目標を掲げ、その中でも「子育て支援」を重点とする計画内容となっております。今後は数値目標の達成に向け、より具体的な施策を展開して参る所存であります。また総合戦略にも掲げております、結婚の促進を図る「出会いの場」の創出事業につきましても取り組みを進めているところであります。

昨年は、水稲をはじめ、畜産、野菜、葉たばこなどの値段が上がり、雇用も拡大傾向にあるなど、災害時の最悪の状況からは一歩抜

け出たと実感できる1年でした。

そのような中、東日本大震災や原発事故などの影響による閉塞感を払しょくし、さらに町の元気を取り戻すため「小野町60周年記念式典」において、東京農業大学名誉教授の小泉武夫先生を当町で2人目となる名誉町民に推戴、町内中学校の鼓笛隊をはじめ、町内各種団体の皆さんに参加いただき実施した「元氣発信！小野町交通安全パレード」、女優のあき竹城さんを招いての「敬老会」、マラソンのオリピックメダリストの有森裕子さんを招いての「こまち湖健康ランニング教室・ウォーク大会」、「あぶくま高原新そばまつり」と「商工会うまいもんNo.1決定戦」を同時開催した「小町ふれあいフェスタ」、町の公式イメージキャラクター「小桜ちゃん」の着ぐるみ作成、「小桜ちゃん」をデザインした原動機付自転車などのご当地ナンバープレート製作製、ふるさと文化の館美術館においては、「浮世絵の世界展」、生涯学習講演会の「さかなクンのおさかなトークショー」、「子ども議会」を開催するなどさまざまな事業に取り組んだところであります。

小野町は地震をはじめ、災害に強く、自然が美しいあぶくま高原の交通の要所という特色を前面に押し出し、今後も町民の皆さんと一緒に「住みたい町」「住んで良かつ

た町」を実感できるよう、まちづくりを進めて参る所存であります。

いつの時代も、町の発展を支えているのは町民の皆さんです。小野町に住む人々が郷土に誇りと愛着を持つことで、人が輝き、町が輝き、小野町発展の可能性が広がっていくものと信じているところであります。

引き続き「新しい一歩」と「元氣な町づくり」のための生活環境の整備やあぶくま高原道路の延伸に合わせた地域基盤の整備、認定こども園など子どもたちがのびのびと学べる教育施設の整備、公立小野町地方総合病院と連携した保健、医療、福祉の充実、地域産業の振興、少子化対策など、合併61年目を新しい第一歩と、決意を新たに、農工商の調和のとれた町づくりのため、「オール小野町」で積極的に歩みを進めて参りたいと考えておりますので、皆さまのさらなるご支援、ご協力をお願い申し上げます。結びに、すべての町民の皆さまのご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。年頭のごあいさつとさせていただきます。

